

平成28年度 指定管理者施設管理評価シート

部 文化産業観光部 課 文化振興課

施設名称	〔8〕 東京都台東区立書道博物館					
指定管理者の名称	公益財団法人台東区芸術文化財団	指定期間	H27.4.1 ~ H32.3.31			
1. 指定管理者の概要						
(1)業務内容	芸術文化、区民文化、スポーツ文化に関する事業の実施 芸術・文化・スポーツ施設の管理運営					
(2)類似施設の管理実績	文化施設5箇所					
(3)経営状況	27年度決算 歳入 617,374,153円 歳出 547,768,187円 収支差額 69,605,966円					
2. 施設の概要						
(1)所在地	台東区根岸2-10-4					
(2)設置目的	洋画家でもあり書家でもあった中村不折が開設した書道博物館は、開館以来60年にわたり中村家が運営してきたが、平成7年に区が寄贈を受けた。不折の作品及び書道に関する収集品を広く一般に展示公開し、区民文化の振興を図る。					
(3)利用者	区民ほか					
(4)開館日・時間	開館日：休館日（月曜日/12月29日～1月3日/特別整理期間等）を除く 開館時間：午前9時30分～午後4時30分（入館は午後4時まで）					
(5)規模	延べ床面積 1,032.38㎡（蔵）16.52㎡ R C造 平屋建（本館）247.93㎡ R C造 2階建て 第1～5展示室（中村不折記念館）764.83㎡ R C造 3階建て エントランスルーム、展示フロア、特別展示室、中村不折記念館、会議室、事務室など					
(6)人員体制	8名 常勤固有職員（1）派遣職員（1）区政嘱託員（1）研究員（2） 専門員（2）特例嘱託員（1）					
3. 事業（サービス提供）の概要						
(1)委託事業	博物館資料の保管及び展示、博物館資料に関する調査及び研究などの事業 施設・付帯設備及び物品の保全・調整、施設内の清潔整頓、その他環境整備等の事業。施設使用料徴収などの事業。					
(2)自主事業	特別展「顔真卿と唐時代の書」、企画展 中村不折コレクション「不折が愛した中国・南北朝の書」、「漢字のヒ・ミ・ツ」、みんなが見たい優品展「書のスケッチ『臨書』の世界 手習いのあとさき、王羲之から不折まで」					
4. 予算決算の推移						
		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算	委託料	32,906,000	30,152,000	22,651,000	26,446,000	23,584,000
	利用料金収入	0	0	0	0	0
	その他収入	0	0	0	0	0
	管理経費	32,906,000	30,152,000	22,651,000	26,446,000	23,584,000
決算	委託料	32,335,170	28,325,400	21,873,371	26,347,104	21,813,513
	利用料金収入	0	0	0	0	0
	その他収入	0	0	0	0	0
	管理経費	32,335,170	28,325,400	21,873,371	26,347,104	21,813,513
	収支	0	0	0	0	0
5. 施設の稼働状況等（活動指標）						
指標名称	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	
開館日数	日	274	266	272	277	
6. 成果指標						
指標名称	単位	目標値 （29年度）	25年度	26年度	27年度	
入館者数	人	15,000	12,525	13,442	15,400	

7. 平成27年度評価結果に対する現在までの取組み

新たな来館者サービスとして開始した年間パスポートは大変好評で、売上を伸ばすのと同時にリピーターの増にも繋がった。また、貴重な資料を多数保有する利点を生かした、東京国立博物館との連携事業の特別展や、漢字の成り立ちを収蔵品で紹介した企画展も好評で入館者数を伸ばした。

8. 評価項目
 3：協定等の水準を上回っている。
 2：協定等の水準どおりである。
 1：おおむね協定等の水準だが課題がある。
 0：協定等の水準を下回っている。
 -：評価対象外項目。

評価の観点	評価項目			
(1)事業の運営 平均 [2.3]	(a)施設の目的達成	[2]	(f)開館時間等の遵守	[3]
	(b)サービス水準	[3]	(g)自主事業の成果	[3]
	(c)職員配置	[2]	(h)個人情報保護	[2]
	(d)職員研修	[2]	(i)緊急時対応	[2]
	(e)案内・接遇	[2]	(j)警備・防犯体制	[2]
(2)施設の維持管理 平均 [2.0]	(a)建物保守・設備機器点検	[2]	(e)危険箇所等の確認	[2]
	(b)備品の管理	[2]	(f)管理記録の作成・保存	[2]
	(c)清掃・衛生管理	[2]	(g)業務委託の事前承認	[2]
	(d)施設の修繕	[2]	(h)省エネ・省資源・環境配慮	[2]
(3)利用者の満足度 平均 [2.4]	(a)利用者・第三者機関の評価	[2]	(d)利用しやすい環境整備	[3]
	(b)苦情・要望への対応と報告	[2]	(e)関係団体・地域との関わり	[2]
	(c)利用者数等の目標達成	[3]		
(4)収入支出 平均 [2.0]	(a)適正な予算執行	[2]	(c)収支計画の達成	[2]
	(b)管理経費の効率化	[2]	(d)利用料等の徴収・管理	[2]

9. 評価
 S（水準以上）：協定等の水準を満たし、一部に水準を上回る内容がある。
 A（適正）：協定等の水準を満たす管理が行われている。
 B（一部課題あり）：協定等の水準を満たしているが、一部に課題がある。
 C（課題あり）：協定等の水準を満たしているが、課題が複数ある。
 D（水準未滿）：協定等の水準を満たしていない。

評価の観点	評価	説明
(1)事業の運営	S	ギャラリートーク参加者への年間パスポートのPRや、展示替えに伴う臨時休館期間を必要最低限に抑え開館日数を増やすなど、来館者サービスに積極的に取り組んだ。
(2)施設の維持管理	A	貴重な資料の保存・保護のために収蔵品の修理については計画的に執行できるよう、区へ計画書の提出を行っている。また施設の修繕についても小まめに連絡があり、軽微なものについては基本協定書に基づき管理業務経費で行っている。
(3)利用者の満足度	S	年間パスポートの発行は固定のファンに好評で満足度も高い。また、東京国立博物館と連携した特別展をはじめ、漢字の成り立ちを収蔵品で紹介した企画展も好評で夏休み期間中には児童・生徒の入館者数を伸ばした。
(4)収入支出	A	事業の効率化に努めながら、適正に予算の執行がなされている。

10. 総合評価 良好 妥当 要努力 要改善 不適

良好	貴重な資料を多数保有する利点を生かした特別展をはじめ魅力ある企画展、年間パスポートの効果的なPRや開館日数の増など管理運営の工夫が入館者増に繋がった。
-----------	---

11. 平成28年度評価結果に対する今後の対応

今後も資料の保存・保護に配慮しながら関係各所と連携した魅力ある事業を展開し、重要文化財等の貴重な資料の展示公開を行っていく。また、年間パスポートのより効果的なPRや開館日数の確保に取り組みながら、入館者数の維持を目指す。